

慶元寺古墳群(世田谷区)

正面が慶元寺



参道を進む



山門/江戸時代中期の建立/右手に説明坂が立っている



永劫山 華林院 慶元寺

浄土宗、京都知恩院の末寺で、本尊は阿彌陀如来坐像である。
当寺は、文治二年（一一八六）三月、江戸太郎重長が今の皇居紅葉山辺に開基した江戸氏の氏寺で、當時は岩戸山大沢院東福寺と号し、天台宗であった。室町時代の中ごろ、江戸氏の木田見今の喜多見に移居に伴ない氏寺もこの地に移り、その後、天文九年（一五四〇）真蓮社空誓上人が中興開山となり浄土宗に改め、永劫山華林院慶元寺と改称した。
更に文禄二年（一五九三）江戸氏改め喜多見氏初代の若狭守勝忠が再建し、元和二年（一六一六）には本輪資頼として五石を寄進し、また、寛永十三年（一六三六）には徳川三代将軍家光より寺縁十石の御朱印地を賜り、以後歴代将軍より朱印状を賜った。
現本堂は享保元年（一七一〇）に再建されたもので、現存する区内寺院の本堂では最古の建造物であるといわれている。
墓地には江戸氏喜多見氏の墓があり、本堂には一族の霊柩や開基江戸太郎重長と寺記に記されている木像が安置されている。
山門は宝暦五年（一七五五）に建立されたものであり、また、鐘樓堂は宝暦九年に建立されたものを戦後改修したものである。
境内には喜多見古墳群中の慶元寺三号墳から六号墳まで四基の古墳が現存している。

昭和五十九年三月

世田谷区教育委員会



📍せたがや百景

⑥〇 喜多見慶元寺界限

昭和59年10月選定
世田谷区

「境内には喜多見古墳群中の慶元寺三号墳から六号墳まで四基の古墳が現存している」と記されている

永劫山 華林院 慶元寺

浄土宗、京都知恩院の末寺で、本尊は阿弥陀如来坐像である。

当寺は、文治二年（一一八六）三月、江戸太郎重長が今の皇居紅葉山辺に開基した江戸氏の氏寺で、当時は岩戸山大沢院東福寺と号し、天台宗であった。

室町時代の中ごろ、江戸氏の木田見（今の喜多見）移居に伴ない氏寺もこの地に移り、その後、天文九年（一五四〇）真蓮社空誉上人が中興開山となり浄土宗に改め、永劫山華林院慶元寺と改称した。

更に文禄二年（一五九二）江戸氏改め喜多見氏初代の若狭守勝忠が再建し、元和二年（一六一六）には永続資糧として五石を寄進し、また、寛永十三年（一六三六）には徳川三代將軍家光より寺禄十石の御朱印地を賜り、以後歴代將軍より朱印状を賜った。

現本堂は享保元年（一七一六）に再建されたもので、現存する区内寺院の本堂では最古の建造物であるといわれている。

墓地には江戸氏喜多見氏の墓があり、本堂には一族の霊牌や開基江戸太郎重長と寺記に記されている木像が安置されている。

山門は宝暦五年（一七五五）に建立されたものであり、また、鐘楼堂は宝暦九年に建立されたものを戦後改修したものである。

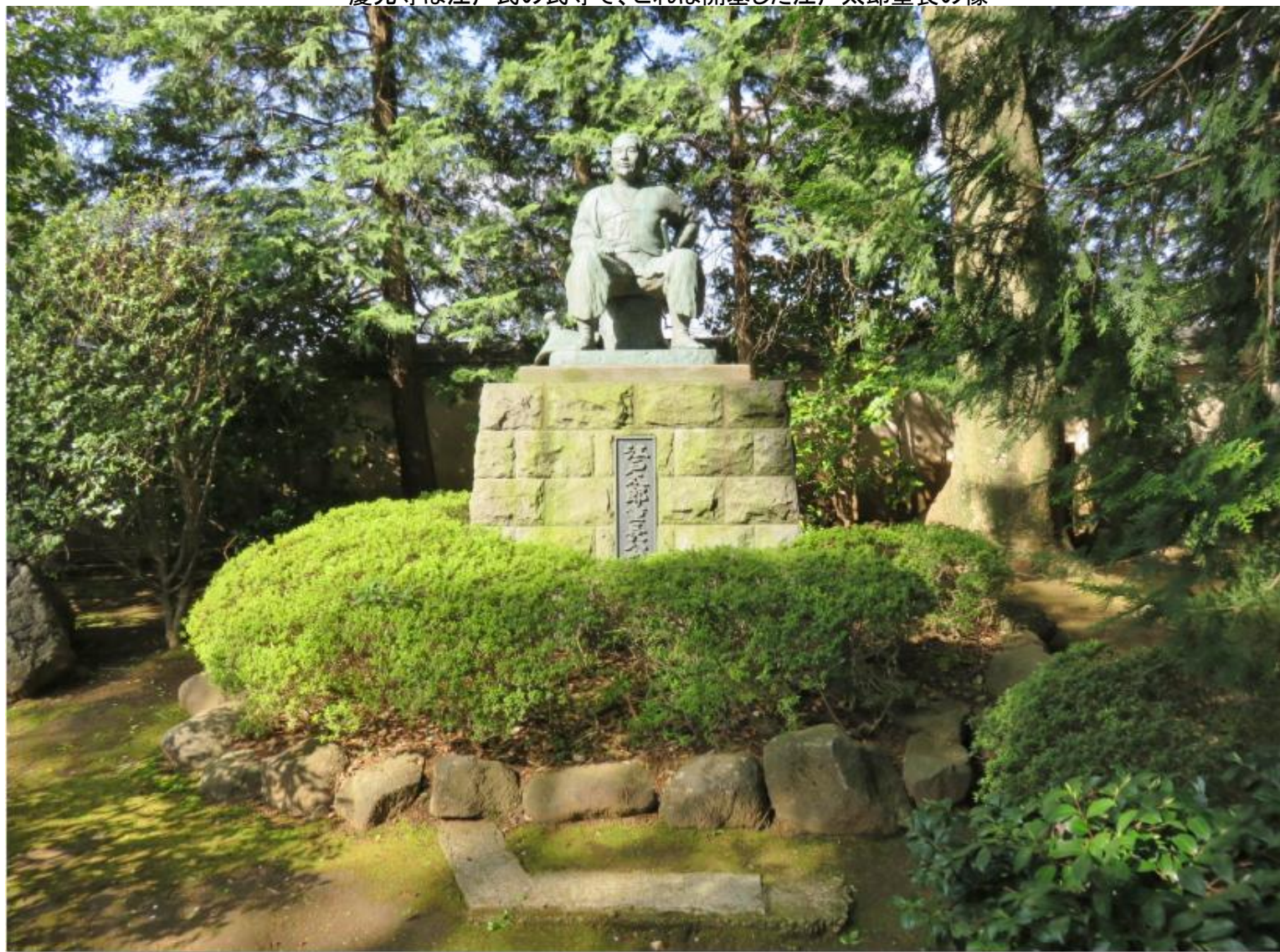
境内には喜多見古墳群中の慶元寺三号墳から六号墳まで四基の古墳が現存している。

昭和五十九年三月

世田谷区教育委員会



慶元寺は江戸氏の氏寺で、これは開基した江戸太郎重長の像



墓地に三重塔が建っていた



南側から見たところ



西側から見たところ



アップで見たところ





お約束の六地藏



これは本堂/江戸時代中期の再建



これは本堂左手横にある観音像/その奥に僅かな高まりを感じる



その高まりを北西側から見たところ



西側から見たところ/これが5号墳のようだ



南側から見たところ/植栽の隙間から僅かな高まりが見える



南東側から見たところ/土留め壁があり、墳丘の高さが見て取れる/建物建設のために削られたということであろう



さて、庭園の中を覗くとやはり僅かな高まりが幾つかある



アップで見たところ/これは4号墳であろうか



右手に目をやるとこんな感じ/これも古墳であろうか



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/t_23_keigenzi/

<http://obito1.web.fc2.com/setagaya.html>

